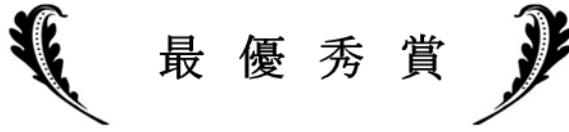


建設系高校生による「建設業に対するイメージアップ」作文の部



「誇れる仕事」

愛知県立碧南工科高等学校 建築デザイン科 3年

永田 ころろ

ある調査によると、建設業は世の中に必要な仕事だと思
う人は九割ほどいます。しかし、建設業の仕事に就きたいと思
う人は一割しかいません。

また、建築現場を街中で見かけることがあっても、建設業に
ついてよく知っている人はとても少ないです。

実際に、工科高校の中でも「建設業」を学ぶ学科は少なく、よ
く知る機会はロボットやITよりも少なく感じます。

さらに、テレビや新聞で見かけるのは建設業に対してプラス
なイメージのニュースよりもマイナスなイメージのニュースのほう
が多いです。

私たちが普段目する建設現場の様子やマイナスイメージのニ
ュースなどを建設業について知らない人たちが目にすると、建
設業に対してよくないイメージが多くなってきてしまいます。

特に多いマイナスなイメージは、きつい、危ないといったもの
です。建物の資材を運んだり、高所での作業をしたりするため、
街中で作業をする姿から、このような印象をもつのかもしま
せん。私も、実際に学校で実習作業をしてみてもきつい、危
ないと思うことがありました。

例えば、足場組立の作業をしていて、布板などの部材を持ち
上げるときには力を使うし、相手との連携がうまくいかなければ、
上から部材を落としてしまうことだってあり得ます。

他にも機械や工具を使用する部材加工では、使い方や間
違えてしまえば、自分自身だけでなく相手まで傷つけてしま
うことになります。建設業はそのイメージ通り一歩間違えれば危
ない仕事になります。

しかし、建設業にはたくさんの魅力があります。

1つ目は、自分の手で何かを作り上げると「感動」と「達成
感」を得ることができるということです。

街中で誰もが一度は目にしたことのあるものを造ることができ
るのが、建設業なのです。私は授業で足場を組み上げただけで
もすごい感動と達成感を得られることができました。

これが、家や公共施設、高速道路といった地図に残るような
ものを造ることができたのなら、どれほどの気持ちになるだろう
と思います。自分が頑張ったことが形になる、それがものづくりの
魅力でもあります。

もちろん建設業の魅力はこれだけではありません。

2つ目は人に感謝される仕事だということです。

例えば、相手の要望に応じて建物を建てたり、インテリアをデ
ザインしたりすると、相手に感謝されます。

お客様と関わることで、一緒に何かを作り上げる、そして相手
の思いのこもった建物が形になる、そんなすばらしい仕事です。
私たちが今いる場所も誰かの手によって、いろいろな人の思
いをのせて作られたものだと思うと、建設業は立派な職業だと
思うことができます。

そして、私が思う建設業の一番誇れるところは、人の生活を
守っているということです。

日本は昔から地震が多く発生し、地震大国とも呼ばれるほど
です。そのため、地震に備えて様々な耐震実験を行ったり、強
度を強めるための構造を考えたりしてきました。

そのようなことから、日本は建物の耐震性には自信があります。
それは、どの国にも誇れることができます。

実際に外国で現地の人たちの技術で建てられた建物は、地
震が起きた時に建物すべてが崩壊してしまいました。

しかし、日本の高度な技術によって、日本の人が建てた建物
は崩壊せずに建っていました。

また、私たちは、地震によってさまざまな被害を受けてきました。
例えば、家が崩れたことによって被害を受けた人もいるし帰る
場所がなくなってしまった人もいます。

そのような人をなくすためにも、建設業に携わる人たちは人々
の生活を守り、過ごしやすい未来を作り出そうとしています。

建設業のマイナスなイメージをすぐになくするのはとても難し
いことです。しかし、自分の家や公共の建物、街中で見かける
建設作業など、私たちの身の回りには建設業について知るき
っかけがたくさんあります。

一人でも多くの人が建設業に対して興味を持ち、学び、特に
若い人たちに知ってもらうことで、人手不足や建設業界の高
齢化問題対策にもつながると思います。

建設業について知ってもらうためにも、私たち建設業に興味を
もち、学んだ若者が、建設業の魅力を伝え、広げていきたいと
思います。

建設系高校生による「建設業に対するイメージアップ」作文の部



「土木を学ぶ」

愛知県立岡崎工科高等学校 都市工学科 3年

堤 悠大

私が愛知県立岡崎工科高等学校都市工学科に入学した理由は、将来人の役に立つ仕事がしたいと思ったからです。

私たちの生活には道路や橋、トンネル、鉄道などの交通施設や生活を支える電気やガス、上下水道などのライフラインが必要です。

これらのインフラ整備を行うための計画や設計、建設などの基礎を学びたいと思いこの高校に入学しました。

工科高校では、普通科目に加えて工業科目を学ぶことができます。

その中でも私が高校生活で頑張ったことは製図の授業と資格取得です。

製図の授業では白い余白部分を綺麗に保つことと、線の太さを変えることを意識して取り組みました。定規を引きずらないことで常に製図用紙を綺麗にすることを意識しました。筆圧を変化させずに線を書くことで、線の太さをはっきりさせることができ、自分の満足のいく作品をつくることができました。仕事に就いても注意すべき点を明確にし、意識して物事に取り組みたいと思いました。

また、測量士補や2級土木施工管理技士補、小型車両系建設機械特別教育などの土木系の資格を始め計算技術検定や情報技術検定などの資格も取得することができます。

資格の取得に向けて私たちは朝や授業後の時間を利用して補習を行いました。特に測量士補取得に力を入れました。過去問を解くことを中心に行いました。

私は、測量の説明や法律などの真偽を選ぶ問題が苦手でした。積極的に取り組み、解説をよく聞くことで理解して解けるようになりました。

私が思うものづくりのやりがいは、仕事の規模の大きさや社会的な意義の大きさです。

土木系のものでづくりは、インフラ整備など大掛かりな仕事が多いです。

山を切り崩し地形を変えるような工事など、自分の携わった仕事によって地図が置き換えられることもあります。新しく出来上がった構造物を見ることで、自分の仕事が形になり、末永く残る仕事に関わったという達成感を得ることができます。

同時にものづくりの楽しさを味わうことができます。私たちが安全に生活を送れているのは、さまざまな土木工事

のおかげだといえます。

移動が可能なのは、道路がアスファルト舗装されているおかげ、水道やガスが使えるのは配管工事のおかげ、大雨でも河川が氾濫しないのは、護岸工事のおかげです。

土木の仕事は、わたしたちの暮らしになくてはならないものです。そのような社会的意義の大きさ、世の中全体に対する貢献度の高さが、土木のやりがいにつながっていきます。

近年は、自然災害が相次ぎインフラが破壊されるケースも頻発しています。その際に復旧作業を担うのは土木の仕事です。ますます重要性が増していると思います。

現場見学では、建設中のダムや高速道路などに行き実際に工事が行われているところを間近で見ることができました。

現場見学を行うことにより、仕事の内容や普段心掛けていること、注意していること、どのくらいかかる工事なのかなど様々な説明を受けることができました。

私はこれまでに多くの企業の方のお話を聞きました。企業の方は大きな事業の達成によってやりがいを感じるとともに直接地域の方から感謝されることも大きなやりがいとなっていると聞きました。

企業の方は「わからないことは必ず先輩などに聞くこと、わからない状態のままにしていると仕事が遅れ全体に迷惑が掛かってしまう。」と言っていて、私は自分で解決することも大切だと思いますが、人に頼って答えを見つけることも大切だと学ぶことができました。また、コミュニケーション能力の重要性についても学ぶことができました。工事をしていく中で指示をするときや事務的な会話の際はもちろん、地域の方々に関わり、意見を聞く際にも必要だと知りました。

企業の方は「意見だけでなくクレームや質問を受けることもある」と聞きました。そこでクレームや質問に対し、適切な言葉遣いで対応するためには正しくコミュニケーションをとれる必要があると思いました。

私は、これから社会に出ていく中で必要な能力を身に付けられるよう、これからも努力したいと思いました。